

「エビガラスズメ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

4年担任をしている先生が、「田中先生、見てください、ベランダ見てください!」と呼びに来た。ベランダに置いてある、サツマイモのプランターに「巨大なイモ虫」がいるという。



なるほど、このサツマイモの葉は、相当にやられている。すでに暗くなっていたし、サツマイモの葉が好きとなると、私はすぐにハスモンヨトウ（斜紋夜盗）の幼虫を思い浮かべた。



ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* (ヤガ科)

ハスモンヨトウの幼虫は「夜盗蛾」の名の通り、昼は土にもぐっていて、夜になると、食草のサツマイモの葉を食べに茎に上って来るのだ。ハスモンヨトウの幼虫はサツマイモを好むが、サツマイモ以外のほとん

どの野菜を食べるので、農家にとっては誠に厄介な害虫である。しかし、ハスモンヨトウの幼虫はそれほど巨大とはいえない。



プランターをちょっと見ただけではよくわからなかったが、よくよく見ると、サツマイモの茎の上に2匹の「巨大なイモ虫」がいる! 目立つようで目立たない。幼虫の体の模様や色が、サツマイモの茎や葉の雰囲気は何となくとけこんでいる。これも「自然のかくし絵」の一種と言えるだろう。これはハスモンヨトウではなく、エビガラスズメの幼虫だった。



エビガラスズメ *Agrius convolvuli* (スズメガ科)

エビガラスズメ(蝦殻天蛾)は、スズメガの一種で、成虫の体の模様から名称がついた。ハスモンヨトウよりも二回りぐらい大きく太いので、確かに「巨大なイモ虫」に見える。尾部にある突起もスズメガの幼虫の特徴だ。この幼虫は終齢でもうすぐ蛹化する。「どうしたらいいですか?」と聞かれたので、「子どもたちに見せたあと、できればこのままにしてください。土の中でサナギになります」とお願いしておいた。サナギになったら、もう一度観察したいと思った。